

# 大桑 特別号-6 まさたか



横浜市議員3期目  
よろしくお願いします!

さかえく せかい か  
栄区から横浜を変える!

## 【公約】

現在を含め未来のために持続可能な横浜(社会)をつくる!

## 横浜市と栄区について

今回は、横浜市と横浜市内に「18個」ある区(行政区)について書かせて頂きます。私が横浜市議員として活動している中で、皆さんから聞かれることに「栄区は栄区として独自の予算を持っていろいろな事を進めることは、できないのですか?」という内容の質問があります。もちろん、栄区として独自の予算を持って進めている事業もあります。しかし、栄区は横浜市の中の一つの区でしかありません。栄区は横浜市から独立した区ではなく、横浜市の中にある内部組織となっています。そのため、栄区で使う予算の総額は、大部分を横浜市が決め、そのほとんどを全市的な観点から横浜市が使うこととなります。また、税金を集めるのは栄区ではなく横浜市となっています。

たとえば、東京都にある23区(特別区)と栄区では与えられている権限が違います。東京都にある23区は、一般的な市と同じような権限を持っています。しかし、横浜市の中にある栄区は横浜市の中の組織の一つでしかありませんので、栄区には一般的な市のような権限はありません。



横浜市の場合



東京都の場合

最後に、横浜市の中の一つの区である栄区と東京都にある23区の一つの違いは、区長が「市長から任命されるのか?」「選挙で選ばれるのか?」というところです。横浜市の場合、区長は横浜市長が任命し、横浜市長の権限の下にあります。しかし、東京都にある23区の区長は住民から、直接、選挙で選ばれ、横浜でいう市長と同じような権限を持つこととなります。

## 大桑新聞 特別号-6 無所属(みんなの党推薦) 大桑正貴(まさたか)

発行元

横浜市議員 大桑正貴(まさたか)

〒247-0005 神奈川県横浜市栄区桂町688-4-601

HP : <http://m-okawa.net/>

E-mail : [m-okawa@mvg.biglobe.ne.jp](mailto:m-okawa@mvg.biglobe.ne.jp)

昭和48年(1973年)7月4日生まれ横浜育ち 血液型A型  
横浜市立小山台小学校入学  
大分県立大分舞鶴高校入学(1年次冬、転勤で横浜へ戻る)  
神奈川県立大岡高校卒業  
神奈川大学法学部法律学科卒業  
平成14年(2002年)12月 アシスト株式会社退職  
平成15年(2003年)4月 横浜市議員 初当選  
平成19年(2007年)4月 横浜市議員 2期目当選  
平成21年(2009年)9月 明治大学 専門職大学院卒業  
平成23年(2011年)4月 横浜市議員 3期目当選

## カンパのお願い!

法律により、「法人」や「匿名の方からの年間5万円以上」のカンパは受け取ることが出来ません。

振込先 : 三菱東京UFJ銀行 港南台支店 普通口座 1097570

口座名義 : 大桑正貴としがらみのない政治を実現する会 大桑 正貴

## 国民健康保険【医療費】について

国民健康保険【医療費】は、一般的には、窓口で支払う自己負担分（基本的に3割）、国や県からの交付金（約3.5割）、そして加入者の保険料（約3.5割）で成り立っています。しかし、横浜市の場合、他の市町村に比べ、加入者（被保険者）の所得が高いなどの理由から、国・県の交付金（医療費全体の約3割）が、一般的な自治体の交付金（医療費全体の3.5割）と比べ少なくなっています。

### 【一般的な国民健康保険の医療費財源構成】

|              |                  |                  |
|--------------|------------------|------------------|
| 自己負担分<br>約3割 | 国、県の交付金<br>約3.5割 | 加入者の保険料<br>約3.5割 |
|--------------|------------------|------------------|

### 【横浜市の国民健康保険の医療費財源構成】

|              |                |                   |
|--------------|----------------|-------------------|
| 自己負担分<br>約3割 | 国、県の交付金<br>約3割 | 加入者の保険料・市費<br>約4割 |
|--------------|----------------|-------------------|

横浜市では国や県からの交付金が少なくなっている分を、横浜市で国民健康保険に加入されている方々に負担をお願いしたり（横浜市の保険料は他都市より割高になっています）、横浜市の予算から充当しています（平成21年度は約66億円の市費を投入しています）。これは言い換えれば、横浜市（横浜市民）は、他の自治体よりも、国民健康保険に対して多くの負担をしていることとなります（医療費全体の約4割を負担）。この件については、国民健康保険のあり方を含め交付金の配分方法を見直すよう横浜市として国に要望書を出しています。また、最近では横浜市議会として、同様の趣旨の意見書を国に提出しています。

最後に、今後も横浜市（横浜市会議員）として交付金を適切に配分するよう国に働きかけていきます。それと同時に、私は、先の統一地方選挙でみんなの党の推薦を受けておりますので、みんなの党の衆議院議員である浅尾慶一郎氏と連携して、国民健康保険の財政措置について公平かつ合理的な配分方法になるよう国に働きかけていければと考えております。

## 栄区（横浜市）の現状と今後の課題

2010（平成22）年4月1日現在の栄区の人口は、**12万4,808人**（横浜市の人口は、367万2,985人）です。また、世帯数は、**5万0,654世帯**となっています。

次に、横浜市の将来人口推計によると、2055（平成67）年、45年後には、栄区の人口は**約8万人（約4万5千人減少）**になるとされています（横浜市の人口は、約320万人）。また、世帯数でいえば、**約3万5千世帯（約1万5千世帯減少）**ということになります。

横浜市の人口はあと10年程度は増加するとされていますが、その後は減少に転じると予想されています。この人口減少や世帯数の減少は、栄区や横浜市にとって大きな問題になると、私は考えています。



※人口は、約4万5千人、世帯数にすると、約1万5千世帯減少すると予想されている。



大桑新聞では、みなさまとともに、  
栄区について考えていきたいと思っております。

HP : <http://m-okuwa.net>  
E-mail : [m-okuwa@mvg.biglobe.ne.jp](mailto:m-okuwa@mvg.biglobe.ne.jp)

JR大船駅・JR本郷台駅・JR港南台駅、いずれかの駅で配布しております。